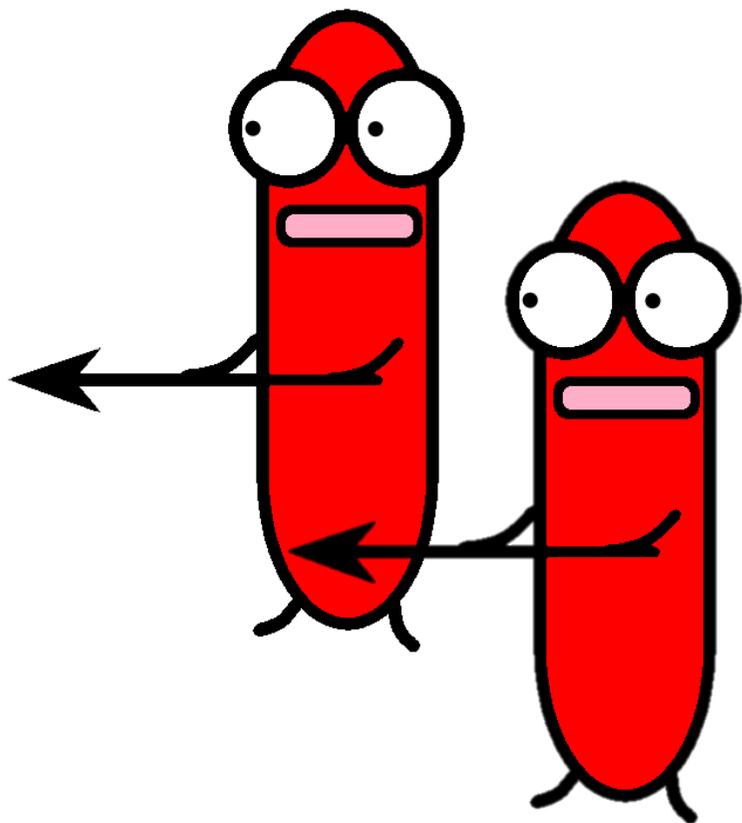


検査説明パンフレット 結核の検査



結核とは？

結核菌という細菌が体の中に入り、増えることによって起こる病気です。日本では、結核の約 8 割は肺です（肺結核）。結核菌が肺の内部で増えて、結核に特有な様々な炎症が起こります。続いて肺が破壊されていき、呼吸する力が低下します。

肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります（肺外結核）。

昭和 25 年まで日本の死亡原因の第 1 位でしたが、適切な治療法が開発されてからは、患者数は一時期を除いて減少しています。

しかし、今でも年間 17,000 人以上の新しい患者が発生し、年間で約 1,800 人以上の人が命を落としている日本の重大な感染症です（厚生労働省：平成 28 年結核登録者情報調査年報）。さらに世界に目をむけると、毎年 180 万人も結核で亡くなっています（WHO, Global Tuberculosis Report, 2016）。

結核の症状

初期の症状はカゼと似ていますが、せき、痰（たん）、発熱（微熱）などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。

さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰（たん）などが出始め、喀血（血を吐くこと）や呼吸困難に陥って死に至ることもあります。



結核の検査

インターフェロンガンマ遊離試験(IGRA)

血液検査によって、「結核菌に感染しているか否か」を判断する検査です。IGRA 検査には、下記の2種類があります。

①T-SPOT

②QFT (クオンティフェロン)

今まで用いられてきたツベルクリン反応とは異なり、BCG 接種や非結核性抗酸菌症による影響は受けません。しかし、いつ結核に感染したかは分からず、また、結核に感染した人が全員陽性になるとは限りません。

X線撮影検査 (レントゲン)

X線撮影を行い、疑わしい影がある場合はCT スキャンなどの精密検査を行います。

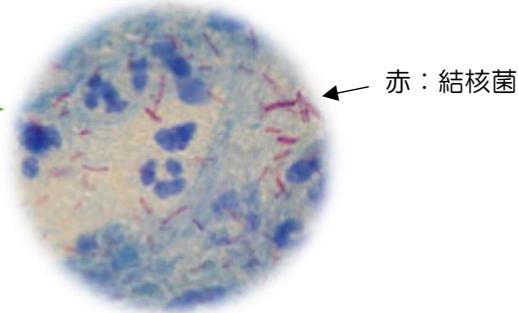
喀痰(かくたん)検査

結核菌を排菌しているかどうかを調べます。

①塗抹検査

採取した検体の中に結核菌がいるかどうかを、スライドガラスに検体を塗抹、染色して顕微鏡で見る検査です。菌が活着しているか死んでいるかは区別できません。

顕微鏡写真(1000倍)
チール・ネルセン染色



②培養検査

検出感度も高く、分離菌を用いて菌種の鑑別・同定や薬剤感受性検査などを行うことができます。しかし、結核菌は発育が遅いため、結果が出るまでに数週から2か月近く要してしまいます。

③遺伝子検査

結核菌のDNA(遺伝子)を抽出し、それを増幅して結核菌の有無を調べる検査です。培養検査に比べて短時間で結果が出せ、また抗酸菌の種類までわかる点が大きなメリットです。

結核の予防

まずは、免疫力が低下しないように規則正しい生活を心がけましょう。栄養バランスのよい食事と十分な睡眠、適度な運動などが大切となります。なお、結核菌は紫外線に弱く、体外に排出された菌は日光に当たると数時間で死滅します。

次に、定期的に健康診断をきちんと受けることが重要です。カゼのような症状が長く続くようなら、病院を受診しましょう。他の人への感染を防ぐため、早期発見、早期治療が重要です。



BCGは、結核の重症化を防ぐワクチンです。毒性を弱くした牛型結核菌を接種します。そうすることで軽い結核のような反応を起こさせ、本当の結核菌が後から侵入した時に備えて免疫をつけておく、というのがBCGのねらいです。

BCGは特に子供の結核予防に有効で、安全な予防接種として世界で広く用いられています。ただし、BCGの結核予防効果は十〜十数年というところではあります。小児の結核予防には効果がありますが、成人の結核に対する予防効果は高くないとされています。

